

～埼フィルメンバーと仲間たち～
室内楽コンサート2015

2015年4月19日(日)
* 彩の国さいたま芸術劇場・音楽ホール *

〔後援〕さいたま市教育委員会

ご挨拶

埼玉フィルハーモニー管弦楽団団長 森岡甫宏

本日は私たちの室内楽コンサートにご来場いただき、ありがとうございます。

普段はフル編成のオーケストラで演奏しているメンバーたちの有志が企画して始まったこのコンサート、今年では13回目になります。皆様に楽しく音楽が届けられるように、心を込めて演奏いたします。

最後になりますが、本日の演奏会の開催にあたりご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。今後ともご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

プログラム

ル・グラン・タンゴ〔ピアソラ〕

この曲は、ピアソラがロストロポーヴィッチに送った曲です。クラシックとは違うタンゴの魅力を楽しんでいただけるようにがんばります。

◇◇◇ **ピアソラズ(チェロ・ピアノ)**

Cello : 黒川節二 Piano : 上原旭

◇◇◇ この後のプログラムでも演奏する、富士五湖管弦楽団からの出演です。

弦楽五重奏曲第2番より第1楽章〔ドヴォルザーク〕

ドヴォルザークといえば、みなさんおなじみの作曲家。彼は、3曲の弦楽五重奏曲を残していますが、通算2曲目にあたるこの作品のみ、ヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロとコントラバスという、五重奏曲としては変わった編成のために書かれています(変わった……といっても、つまりは弦楽合奏形態ですが)。作曲家としてようやく自立できるようになった頃の初期の作品ですが、優れたメロディ感覚や小気味よい転調など、その後、名声を得ていく彼の才能がうかがえます。今日は、このなかから第1楽章を演奏します。

◇◇◇ **まお五重奏団(弦楽五重奏)**

Violin : 杜銘雨/岡田正美 Viola : 山本結香 Cello : 梶間真理

Contrabass : 出浦美帆

◇◇◇ まお五重奏団です。まおってだれ?? あのスケートの? もしかして、タカラヅカの?
正解は『ネコ』です、中国語で。演奏が気ままにならないようにしないとね～。

2

3

ピアノ五重奏曲第1番作品30より第1・2楽章〔ファランク〕

ルイーズ・ファランク（1804～1875）はパリ生まれの女性作曲家・ピアニストです。女性として初めて、パリ音楽院の教授に就任した方です。交響曲3曲や数多くの室内楽作品がありますが、今回は2曲あるピアノ五重奏曲から、第1番の1楽章と2楽章より演奏します。楽しく、また洒落たメロディが美しい曲と思います。低音をコントラバスでサポートされているぶんだけチェロは高音が多いので、一部をヴィオラに助けてもらっています。

◇ クインちゃって（ピアノ五重奏）

Violin：瀬戸江里子 Viola：高橋良暢 Cello：長島秀幸 Contrabass：川田守昭
Piano：小野田和子

シューベルトのピアノ五重奏曲《ます》を楽しみたいと集まったメンバーです。《ます》以外の曲にも挑戦してみようとはじめましたが、ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの編成の曲は多くありません。今回は19世紀のフランスの女性作曲家でピアニストの、ルイーズ・ファランクの同じ編成の曲に挑戦してみました。

オペラ《アルチェステ》より〔グルック〕

メンバー全員が気に入ってしまった曲です。好きなテンポで自由に演奏させていただきます。

《月の光》より〔ドビュッシー〕

金管五重奏のイメージがまったくわからない曲だと思います。ある意味、挑戦ですが……ご期待ください。

「私はあなたが大好き」〔サティ〕

原曲「JE TE VEUX」の歌詞の日本語訳をみました。あまりにも刺激的で……私に表現できるものでしょうか？

カンツォーナ・ペル・ソナーレ第2番〔ガブリエリ〕

ブラスアンサンブルと言えば……ガブリエリ。最後に残しておきました。ありがとうございました。

◇ 埼玉フィルブラスアンサンブル（金管五重奏）

Trumpet：三浦敏正／水木由美 Horn：二宮一敏 Trombone：寺尾功生
Euphonium：酒井香織

今回はチューバのかわりにユーホニウム酒井香織さんに参加いただきます。ユーホニウムという楽器、オーケストラでは、ごく一部の曲にしか使ってもらえませんが、なかなか魅力的なところがたくさんありまして……ぜひ味わっていただければと思います。そしてホルンには埼玉フィルでコントラバスを演奏している二宮一敏さんが参加してくださいませ。いいメンバーとの出会いで、今後は編成の大きな曲に挑戦する時期が近づいているのではと感じています。

4

5

ピアノ三重奏曲第7番《大公》より〔ベートーヴェン〕

ピアノトリオの名曲といわれている割には、古典らしい地味な曲です。実際に演奏するまで、弦楽器の二人は、あまり乗り気ではありませんでした。でも、練習を重ねるにつれて、この曲の良さを感じられるようになりました。その魅力が少しでも伝わりますように……。

◇ 富士五湖管弦楽団（ピアノ三重奏）

Violin：原口光輝 Cello：黒川節二 Piano：安原文

日本の麗峰富士の麓、富士五湖周辺で主に活動している団体です。バロックから現代音楽まで幅広く演奏しておりますが、今回はベートーヴェンを演奏したいと思います。

* 休憩 *

管弦楽組曲第2番より (J.S. バッハ)

バッハが作った舞曲や宮廷音楽の集大成といわれる管弦楽組曲。なかでも第2番は、フルートのソロが美しい旋律を次から次へと展開していく楽しさ満載の曲です。

序曲 荘重な始まりからリズムカルなフルートと弦楽器の追いかっこが始まります。最後はまた重々しく荘重に終わります。全曲の半分近くある長大な楽章です。弾く側にとっては、トリルと付点音符の練習でもあります。(笑)

舞曲が続きます。ガヴォット風のロンド、哀愁のあるメロディが繰り返されます。弾いている側も鼻歌で口ずさみたくなるような……。

ブーレ フランス中央部のオーヴェルニュ地方起源の舞曲で、歯切れのよい4拍子です。まず全楽器で演奏され、その後フルートが軽やかなソロを聞かせます。最後も歯切れよく終わりを迎え、弾く側にとっても達成感を感じる曲です。

ポロネーズ ポーランドの宮廷で流行した舞曲。その名の通り、曲の雰囲気から別の国の舞踏会に行くような感覚になります。途中からはフルートとチェロの見せどころ、変奏曲風にメロディーを奏でます。低弦の深い振動のなかに、フルートのキラキラとした音色がまた映えて素敵な曲です。このポロネーズに筆者の個人的意見をいうならば、これは本当にバッハの曲なのか???と感じてしまう、そんなメロディーなのです。皆さんはいかがでしょうか?

メヌエット フルート奏者は中休みとなる、のどかな感じの曲です。次の楽章へのアプローチともとれます。

バディネリ 全曲中いちばん特徴的な楽章です。弦楽器のスタッカート伴奏の上に、フルートが軽やかに動き回ります。フルート奏者の腕の見せ場となる素晴らしいフィナーレです。序曲の重厚さの始まりとは打って変わり、最終章は、「え、終わっちゃった?」というくらい、風のごとく……。ちなみに、ヘビーメタル&クラシック融合スタイルのギタリストにも編曲して演奏されるほどで、この話からもバディネリがいかにリズムカルでハイテンポで、ノリノリの曲かは想像できます。バディネリというのは舞曲名ではなく、「冗談」という意味だそう。最後にこれを持ってくるなんて、バッハはいかに茶目っ気があり、人生楽しもうとした人が想像できますね。見習いたい……。

アンサンブル・アルモニコ (室内管弦楽)

Flute : 岡田章宏 Violin : 瀧本恵理 / 西山恵梨子 / 藤原正浩 / 久保木梢 / 瀬戸江里子
Viola : 中野伶哉 / 高橋良暢 Cello : 佐藤謙一 / 黒川節二
Contrabass : 久保田兼士 Cembalo : 小野田和子

アンサンブル・アルモニコは、バロックを中心に演奏を楽しむグループです。メンバーと一緒にいろいろな曲を演奏してきましたが、今まで演奏したことのない曲でも、初めて合わせたの??と感ずるくらい同じ思いで弾く。そう、そういうシンプルな感覚が、メンバーひとりひとりにあるってことだと思います。

今回とりあげたバッハの管弦楽組曲第2番。フルートの華麗な響きをどう調和させるか。この曲は、指揮やプレイヤーの解釈の違いにより、いろいろな雰囲気に仕上がるので、メンバーの「どう弾きたいか」というそれぞれの解釈で、ずいぶん違うものだな〜と勉強になりました。本番はきっと、それぞれのアプローチが集結するのでしょうか、一体どんなふうになるのか、未知数です。弾いているとき、何を考えて弾くのかと聞かれたら、歌、踊り、祈り、、そして演奏後のビールの美味しさ……これは全員一致ですが。(笑)

フルート四重奏曲作品54より第1楽章 (クンマー)

今や知る人ぞ知るカスパー・クンマー (1795~1870) は、ドイツで活躍した作曲家、フルート奏者です。このフルート四重奏曲は、彼の生存中に出版されましたが、古典派からロマン派への時代の流れのなかで、いつしか眠れる名曲となってしまったようです。幸いその後、彼の他の名作の数々とともに再発掘されました。

フルートと三つの弦楽器を通して、シンプルな構成のなかにも、楽しいフレーズや美しいメロディーが次々と姿を変えながら現れます。そんな物語性をお楽しみ頂けたら幸いです。

美女と野獣 (フルート・弦楽三重奏)

Flute : 森岡甫宏 Violin : 工藤みち子 Viola : 五十嵐信一 Cello : 富山薫

美女と野獣は、埼玉フィルの現団員と元団員で構成され、月一回の練習を楽しんでいます。今回の曲は指導者に来て頂いての練習もありましたが、少しは上達できたでしょうか。



トリオのための五つの小品より第1・4・5楽章〔イベール〕

ジャック・イベールは、20世紀のフランスを代表する作曲家の一人で、オペラ、バレエ音楽、交響曲、協奏曲のほかに、多くの室内楽曲を作曲しました。音楽的な印象主義に強い影響を受けたイベールの作品には、多彩な旋律の「おもいつき」がそここちにちりばめられていて、とてもお洒落です。

今日は、彼の作曲した室内楽作品のなかから木管三重奏曲「トリオのための五つの小品」の第1・4・5楽章をお届けします。イベールの世界を、ぜひごゆっくりお楽しみください。

よせなべ☆うっでいーず (木管三重奏)

Oboe : 川西信吾 Clarinet : 森尾丈晴 Bassoon : 田中百合

はい！よせなべ☆うっでいーずです！ 去年は木管五重奏でお送りしましたよせなべですが、今年はオーボエ・クラリネット・バスーン（ファゴット）の、少し小ぶりな三重奏をお届けします。しかししながら、驚くなかれこの組み合わせ、実はトリオ・ダンシュ (Trio d'anches) と呼ばれる、とてもポピュラーな編成なのです。

そして、このよせなべ三人組が本日演奏するのは、無謀にもフランス音楽！ 三重奏だけでも大変なのに、思いっきりハードルを上げてしまいました（汗）。とってもお洒落でかわいいこの曲が、どんなお鍋に仕上がったか（仕上がったのか（汗）？）、あなたの耳で、とくにご賞味ください♪

弦楽セレナーデより第2・1楽章〔チャイコフスキー〕

チャイコフスキー（1840～1893）は交響曲第4番（1877年）と第5番（1888年）の間の10年間に多くの優れた管弦楽曲を生み出しましたが、この弦楽セレナーデもその一つで、1880年に作曲されました。同じ年に序曲《1812年》（作品49）も作曲されています。

あまりに有名な序奏で始まるこの曲は、モーツァルトへの敬愛から生まれ、西洋音楽の形式美・均整のとれた古典様式を踏襲しながら、ロシアの原風景を思い起こさせる、チャイコフスキーならではの名曲です。

四つの楽章から成っていますが、本日は前半の二つの楽章を第2楽章、第1楽章の順でお送りします。

第2楽章「ワルツ」Moderato (Tempo di valse)

第1楽章「ソナチネ形式の小品」Andante non troppo - Allegro Moderato

さいたまストリングス (弦楽合奏)

Violin : 小故島敏子 / 尾崎晶子 / 河合秀樹 / 橋本真純 / 藤原正浩 / 宮地文子 / 森田貴代美 / 渡邊昭子 Viola : 岡田正美 / 小幡加代子 / 二宮奈緒美 / 松木直章
Cello : 長島秀幸 / 常盤純子 / 萬代裕子 Contrabass : 二宮一敏 / 出浦美帆

弦楽合奏の魅力とは何でしょう？ 大きさは違えど、弦を擦ると同じ原理の楽器のみで構成される一体感。誰一人逃げも隠れもできない緊張感。同じ思いのなか、全員の音の一つになったときの達成感！ その響きのなかに身を委ねる至福のときに憧れ、求めて、集まった私たちです。しかし、その道は険しく遠い。

「隊長！もう進めません！左手がいうことを聞きません！右手がしびれて弓が～！」

「弱音を吐くな！コンミスを見る！主旋律、遅れるな！ピツィカート、走るな！」

「ああ、ロシアはいずこ……」

さて、本日の弦セレの響きや如何に？

埼玉フィル第69回定期演奏会のお知らせ

日 時：2015年5月24日（日） 14時開演

会 場：埼玉会館・大ホール（入場無料）

曲 目：シベリウス・カレリア序曲（作品10）
シベリウス・交響詩《エン・サガ》（作品9）
シベリウス・交響曲第2番（作品43）

指 揮：大浦智弘

※詳しくは、ホームページもご覧ください！ <http://saiphil.net/>